



YMCA

月刊YMCA付録
編集・発行/日本YMCA連盟 東京都新宿区本町2丁目7番地
大阪青年 発行/編集一部 編集/大阪YMCA出版部
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-8694 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2005 Nov. 11

No. 578

2005年度大阪YMCA年間聖句

「励ましあいなさい、思いを一つにしなさい、平和を保ちなさい。」(コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの命と事柄の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をほぐし、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを感じるための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する動きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組む平和で公正な世界をめざします。

世界YMCA/YWCA合同祈禱週

「あなたは神にとって大切な人」

平和教育を力強く！

世界YMCA/YWCA合同祈禱週の今年度のテーマ「あなたは神にとって大切な人」は、「誰が神の目によしとされるか」という問いに私たちを向き合かせます。この私たちに、イエスの教え「平和を実現する人々は幸いです」と呼ばれる。その人たちは神の子と呼ばれる(マタイ5:9)という一句が新しく心に響きます。日本社会にも昔から「和をもって尊しとする」風潮がありますが、それが通常は親しい内輪の人間関係を是とするのに対し、ここで言う「平和を実現する人々」は、むしろ自分と敵対する相手とあえて対峙することを求め、したがって激しく厳しい、より強烈なインパクトを含みます。

当時のユダヤ教文書では「隣人を愛し、敵



写真：河野正雄

を憎め」と命じられていました。「隣人」をユダヤ民族の仲間うちとすれば、外国人は「敵」になり、結果として排他的な原理主義に陥り、衝突・対決を生み出すゆえに、イエスは「しかし、私は言う。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ5:44)と呼びかけます。ここに独自のメッセージがあります。すなわち、敵対する者を自分の方に引き寄せ、相手を倒し、滅ぼすことではなく、逆に自分の方から敵と呼ばれる人々に近づき、自己絶対化をひとたび断念することによって、彼らと同じ地平に立つ、そういう和解・共生への道を切り拓こうではないか、とイエスは挑みます。

しかも、イエスは弟子たちにこのような美しい崇高な教えを垂れて、お釈迦様のように天寿を全うしたのではありません。まさしくこの「愛敵」の教えを身をもって証し、貫徹したゆえに十字架上で果てたナザレのイエスの生と死、ここにキリスト教の原点があります。

マタイ5:9の後半にある「幸い」とは、宗教改革者ルター訳では「幸い」、つまり「教い」を意味します。したがって、私たちはイエスの教えを単にロマンチックな道徳的要求としてではなく、むしろ宗教的メッセージとして聞くべきです。イエスの呼びかけが何れも「神の子となる」という人類究極の希望と結びついている所以であります。

聖書の「解釈」だけで歴史は動きません。全国教会、キリスト教主義学校、そして使命共同体としてのYMCA/YWCAが連帯し、平和への祈りの共同と強靱な意志鍛錬を「実践」に結びつける平和教育の徹底を力強く推し進めなくてはなりません。

山内一郎 (関西学院理事長)

地の塩

▼キリスト教特有の教会暦と呼ばれるものがある。この暦はイエス・キリストの主要な事跡を中心に定められている。十一月二十七日と十二月三日の間に来る待降節(イエスの誕生を待望する時)に始まり、降誕日(クリスマス)、受難節、復活節、聖霊降臨日、三位一体節を経て再び次の待降節に続く。教会暦では、十一月は最後の月ということになる。▼十一月二三日は勤労感謝の日である。米国では今年は翌二四日が感謝祭となる。秋の収穫を媒介として、感謝に心を馳せることは、多くの地域での共通の思いであろう。▼数年前、韓国に旅行中、感謝祭の礼拝に出席したことがある。イエス・キリストの誕生を待望する前に、一年間の感謝を表そうとする思いに充ちた礼拝であった。在日の友人に聞いたところ、韓国の教会には感謝祭を、一年を締め括る大切な時として守る伝統があるという。▼最近のキリスト教主義の幼稚園、保育所で働く保育者へのアンケート調査によると、保育者の六五パーセントが、保育を通して子どもたちに感謝する心が育ってほしいと願っているという。人への感謝とともに、人の思いを超えて働く神への感謝を、子どもたちが知って欲しいという願いを読み取る事ができる。▼聖書には「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(1テサロニケ5:16-18)と記されている。▼喜びと希望のクリスマスが近づくと十一月に、YMCAに連なる私たちが「感謝」について思いをめぐらしたいと思う。(和)